

全国学力・学習状況調査

碓井中学校 対象学年：第3学年

1 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 学校ごとの指標

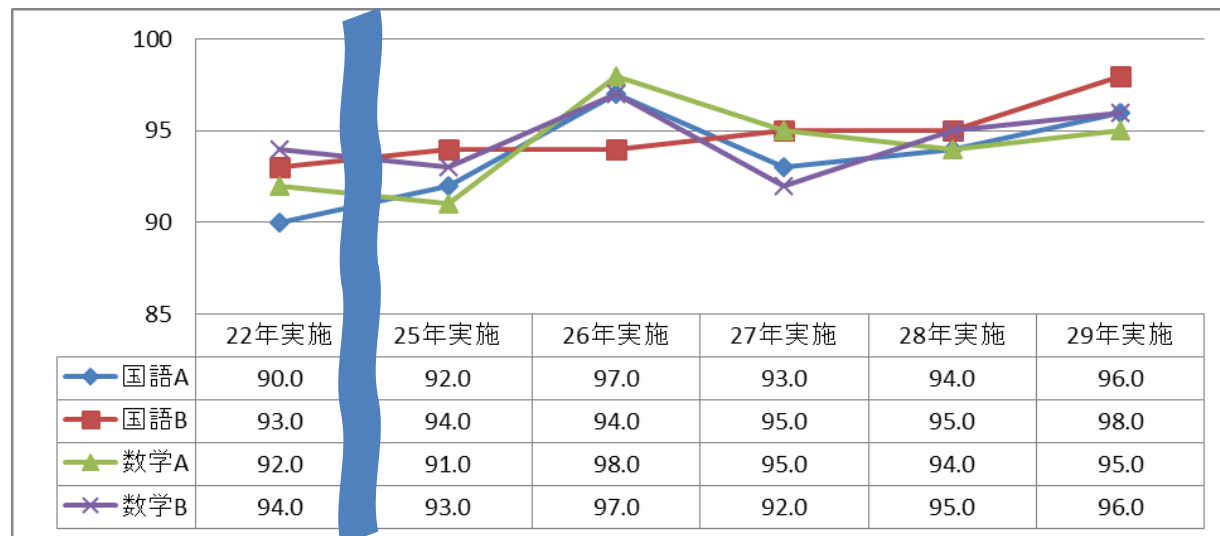
- 国語A：107.8 国語B：97.0 数学A：96.0 数学B：95.0 を目標値とする。

3 指標にむけての取組

- 少人数指導や個別指導、習熟の程度に応じた指導等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導を行う。
- 定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行い、基礎・基本の定着を図る。
- 自学ノートと課題プリント（曜日による教科1枚）を徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 授業規律、学習の構えづくりを徹底する。
- 形成的評価を工夫し、フィードバックを確実にを行い、繰り返し学習や反復学習を実施する。
- 「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」等を活用し、活用力や応用力を育む授業を実施する。

4 調査結果（全国の平均正答数を100とした標準化得点）

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	96.0	98.0	95.0	96.0
嘉麻市	96.0	95.0	94.0	95.0
全国	100.0	100.0	100.0	100.0



5 各学校における分析

- 国語B・数学Bで、目標値を超えることができています。国語A・数学Aは目標値を下回っているが、ほぼ目標値になっている。
- 標準化得点100にはどれも届かなかったが、100に迫ってきており、教員配置を生かした個に応じた指導の工夫と徹底をしてきた成果が出ている。
- 学級全体が落ち着いており、どの授業も落ち着いた雰囲気、学びの環境が整っている。
- 生徒と教師の信頼関係が構築されており、わからないままにしない生徒が増えてきた。
- 学力の二極化が進んでおり、家庭学習が定着していない生徒と相関関係が見られる。

6 各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る。
- 基礎・基本の定着を図るために、定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行う。
- 学力の二極化が進んでおり、家庭学習が定着していない生徒と相関関係が見られるため、習熟度別や課題別の分割授業や、模擬家庭学習等で家庭学習の仕方の学習が必要である。
- 家庭学習の定着を図るために、自学ノートと課題プリント（曜日による教科1枚）を徹底する。段階的に家庭学習の時間を増やしていき、120分間の学習時間をめざすが、本年度は、1年生70分、2年生80分、3年生90分の時間、家庭学習をする生徒を100%にする。
- 試験になると緊張したり、体調を壊したりして、十分に力を発揮できなかった生徒も多いので、普段から試験に慣れ、力が発揮できるような工夫をする。
- 「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」や確かめシート等を活用し、活用力や応用力を育む授業を実施する。

7 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。また、個に応じた指導の充実に向けて、学習の個別化を促進する教材の選定等の支援を行う。

嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じるよう、週末課題の個別化を推進する。

学習習慣の定着に向けて

全国学力学習状況調査の質問紙調査から、本校3年生の70.9%（全国49.3%）が、毎日の学校の授業の復習をしていないことが分かりました。

特に、本校では、昨年度も同様、数学の学習の定着度に課題があり、学年が上がるにつれ、その差が広がっています。勉強の仕方が分からないという生徒もいます。

そこで、12月から1月までのお試し期間ですが、3年生で、パソコンを使った数学の復習をしています。自分の分からない所をコンピュータが、自分が選んだ部分から説明してくれるので、三者懇談中も毎日5～6名の生徒が残って、パソコン室で学習をしています。冬休み中の補充学習でも活用します。職員がいれば、3年生に限らず、利用できますので、これを機に、復習と一緒に、学習の仕方を身に付けてほしいと思います。この学習は、パソコンやタブレットがあれば、家庭でもできるので、必要な際は、数学科の教員に申し出てください。

